

# 平成23年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

## 本年度の重点目標

### ① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する      イ 自他を大切にする心や態度を育成する      ウ 家庭への啓発活動を推進する

### ② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る      イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る  
ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る

### ③ 進路指導の充実

ア 生徒一人ひとりの勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる      イ 生徒一人ひとりの学力や適性、興味・関心を明確にさせる  
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ適確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

### ④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る      イ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する  
ウ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

### ⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する      イ 部活動を充実させる  
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

### ⑥ 体育・健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る      イ 一人ひとりに応じた特別支援教育の推進を図る  
ウ 教育相談活動の一層の充実を図る

### ⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る      イ 校内外の環境美化活動を推進する      ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

### ⑧ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る      イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

### ⑨ 国際交流の推進

ア 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る      イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や資質の育成を図る

### ⑩ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する      イ ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する  
ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

### ⑪ 教職員の資質向上

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る      イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る      ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

# 1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価				次年度への課題と今後の改善方策
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する  ②自他を大切にする心や態度を育成する  ③家庭への啓発活動を推進する	評価指標	人権教育に関するアンケート	評価指標による達成度		評定	総合評価	人権啓発行事や人権ホ 一校と交流活動や学生 アラスト流意識の全 組が学びたい学校で がの尊重より必要で ついては、必要では 委員等、生徒自身に 啓発活動を活性化し たい。
	①-1	人権に配慮した教育活動ができてい 生徒 80%以上 保護者 80%以上 教員 90%以上	①-1	人権に配慮した教育活動 生徒 76.3% 保護者 85.7% 教員 95.2%	B A A	(評定)	
②	生徒の人権意識の向上度	②	人権意識の向上度	B	A	学校関係者の意見	
①-2	教職員人権研修会回数	①-2	4回実施	A	A		
①-3	「人権週間」の回数	①-3	4回実施	B	A		
③-1	「人権教育展」の回数	③-1	3回実施	A	A		
③-2	校誌の人権コーナーを充実	③-2	生徒の活動・作文を掲載	A	A		
	活動計画	活動計画の実施状況		(所見)			学校関係者の意見  人権教育は難しい点も あるが、生徒の意識をよ く把握し、充実した活動 がなされている。立地が 豊学校との交流は意義が の大きいと思われるので、 ぜひ継続的に発展させて ほしい。一人ひとりに、場 面に応じて心を大切にす ることの重要性を学ばせ てほしい。アサーションは 士で体験させると面白く 理解できると思う。また、 アグレップ、サーティエ 等とは役を交代できる一 とで他者を理解しよう。先 助になるようにはコは 生方々の体験として有効 ではないか。
①-1	年間5回「人権週間」を設定する。 ・ホームルーム活動の活性化を図るため城東人権ゼミを充実させる。 ・人権啓発行事（コンサート・映画・講演会等）の実施	①-1	・教材の準備やホームルームの実態に則した授業展開に関して事前検討会を実施した。 ・人権啓発資料を作成し、人権週間中に掲示した。	人権ホームルーム事前検討会では、各ホームルームの現状についても協議し、各ホームルームの課題を踏まえた指導方法を話し合った。職員研修会は、校内のある場面で、人権問題に関する事象が発生したときの対応についての班別討議、また、講師を招いて、「アサーショントレーニング」をテーマとして体験的参加型学習のスキルを習得する研修を実施した。交流事業が今年度から始まった。誰もが向かってくるよう、実施主体の特活課と協力していきたい。			
①-2	人権意識高揚のための職員研修会を前後期で各2回実施する。	①-2	4,7,12,3月に実施した。	職員研修会は、校内のある場面で、人権問題に関する事象が発生したときの対応についての班別討議、また、講師を招いて、「アサーショントレーニング」をテーマとして体験的参加型学習のスキルを習得する研修を実施した。交流事業が今年度から始まった。誰もが向かってくるよう、実施主体の特活課と協力していきたい。			
②	・人権標語の募集、展示 ・豊学校との交流（3年間継続） ・1年生のホームルーム活動において、個々の人権意識の確立を目指し外部講師の招聘を行う（年2回以上）とともに、体験学習を取り入れた活動を実施する。	②	・全校生徒から募集し人権展で展示 ・豊学校学校祭に参加、交流 ・1学年に、豊学校教員による体験学習実施 ・1学年全体で、人間関係の構築を目的としたクラス交流会を実施	職員研修会は、校内のある場面で、人権問題に関する事象が発生したときの対応についての班別討議、また、講師を招いて、「アサーショントレーニング」をテーマとして体験的参加型学習のスキルを習得する研修を実施した。交流事業が今年度から始まった。誰もが向かってくるよう、実施主体の特活課と協力していきたい。			
③-1	PTA総会・城東祭（文化祭）や「とくしま教育の日」に「人権教育展」をそれぞれ開催する。	③-1	5月（PTA総会）、9月（文化祭）、11月（徳島教育の日）にポスター、標語、生徒作文等を展示	職員研修会は、校内のある場面で、人権問題に関する事象が発生したときの対応についての班別討議、また、講師を招いて、「アサーショントレーニング」をテーマとして体験的参加型学習のスキルを習得する研修を実施した。交流事業が今年度から始まった。誰もが向かってくるよう、実施主体の特活課と協力していきたい。			
③-2	校誌の人権コーナーを充実し、保護者への啓発活動を確実なものとする。	③-2	校誌に人権コーナーを設け、人権作文、生徒の人権活動の記録等を啓発資料として掲載	職員研修会は、校内のある場面で、人権問題に関する事象が発生したときの対応についての班別討議、また、講師を招いて、「アサーショントレーニング」をテーマとして体験的参加型学習のスキルを習得する研修を実施した。交流事業が今年度から始まった。誰もが向かってくるよう、実施主体の特活課と協力していきたい。			

## 2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策				
	評価指標	授業に対するアンケート（生徒）	評価指標による達成度	平均	評定		総合評価			
① 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る	①-1	授業の工夫改善度	各教科 70%以上		A A A	(評定)				
		学習に対する動機付け	75%以上							
	②-1	学習に対する意欲度	65%以上		B					
	授業の予習・復習への取り組み度	50%以上								
② 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る	③	進路希望にあったコース（教科・科目）の満足度		80%以上		A				
③ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る	①-2	研究授業参加回数	各教員 年2回		A A	B				
		授業公開	年3回							
	②-2	生徒の学習時間（1日あたり）	0時間の生徒の割合 10%以下		C C C					
	3時間を超える生徒の割合	30%以上								
	1日あたりの平均学習時間	3時間								
③	③	将来ビジョン		3回		B B				
		教育課程		3回						
	活動計画	活動計画の実施状況			(所見)	学校関係者の意見				
①-1	①-1	教科研究会を定期的実施し、授業力の向上・指導案の研究を行う。			①-1	校外模試結果分析を各教科・各学年で行った。6月にシラバスを改訂した。	評価指標による達成度によると、3年生の授業に対する意欲度が昨年度より約5%上昇、学年集会等での指導が効を奏していると考えられる。センター試験の得点結果にも現れているように思われる。	生徒一人ひとりに合ったり、学習指導がなされておたり、自分自身の将来のビジョンを、生徒自身が早くつかめようとするため、それを現れさせたい。1、2年生の授業の予習・復習への取り組み度に関する見つけられれば、学ばなければならぬという課題を時間内に反映させるのは生徒の立場から見たとき、学校での授業と塾との比重はどうか。また、その位置づけを学校教育でさせるのかを明確にする必要がある。通塾者の塾での勉強時間も併せて知りた。総じて、様々な角度からよく取り組まれている。教職員の方々が疲れていないか心配である。		
		①-2 研究授業、授業公開で他の教員の授業を参観し授業力の向上を図る							①-2	研究授業3回、公開授業3回を実施した。
		②-1 ・第1学年で英数国の学習ガイダンスを4月に特設授業の中で実施する。 ○好ましい学習態度を理解させる。 ○予習、復習、授業の受け方指導。 ・毎日家庭学習時間の調査を実施する。								
②-2	②-2	週末課題、週末テスト等を実施して家庭学習の習慣化を徹底する。			②-2	週末課題、週末テストを実施し、基礎学力の定着を図った。	家庭学習時間の確保に関しては、2年生は昨年度(1年生時)より学習時間が少し減っており、3年に向けての指導が必要である。1年生とは昨年度の1年生に比べると若干少なくなっている。			
		③ ・学校行事の厳選、定期考査の工夫を行い、授業時数を確保する。 ・将来ビジョン検討委員会、教育課程検討委員会において教育課程、コース制の在り方等を検討する。						③	行事には極力短縮授業で対応し授業時数を確保した。新学習指導要領に対応した教育課程を編成した。将来ビジョンでは学期制とコース制について改善案を検討した。	

### 3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	進路指導に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒一人ひとりの勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる	② 城東ゼミ（補習）の有用度	70%以上	生徒 72.0%	A	（評定）	1年生の2月から2年生の7月までに成績が下がる生徒が多くなるのを防ぐため、担任や教科会を開き、共通理解をし、指示、指導を徹底したい。キャリア教育については、各学年の行事を有机的・体系的に精選することが必要である。
	③ 進路情報の学校の提供度	80%以上	生徒 81.3% 保護者 85.7%	A		
②生徒一人ひとりの学力や適性、興味・関心に導いたきめ細かな指導を充実させる	①-1 大学見学・企業見学の回数	各1回以上	①-1 各1回実施	A	A	学校関係者の意見
	①-2 大学等授業体験の実施回数	1回以上	①-2 1回実施	A		
①-3 職業ガイダンスの回数	1回以上	①-3 1回実施	A			
②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数	延べ110講座以上	②-1 118講座実施	A			
②-2 休日講座の開催回数	年間7回	②-2 7回実施	A			
②-3 志望する学部等への合格率	80%以上	②-3 88.6%	A			
②-4 課題研究発表会の回数	1回以上	②-3 1回実施予定	A			
③-1 進路説明会回数	年間3回実施 （各学年1回以上）	③-1 4回実施	A			
③進路実現のために必要な情報を迅速かつ適確に収集し、組織的・計画的な指導を行う	活動計画	活動計画の実施状況		（所見）3年生への指導は計画通り実施できた。進学検討会を各2回実施し、学年全体並びに各クラスの状況等について、ホームルーム担任、教科担当者間で共通理解を図ることができた。また、進学関係の教科会を2回開催し意思疎通を図り指導の改善に努めることができた。1年生においては7月（進研模試）の学力をほぼ維持することができた。キャリア教育については総合的な学習の時間を中心に、十分に実施することができた。他に、京都大学オープンキャンパスや県外企業研修、職業ガイダンス等を実施することで、進路に対する目的意識を涵養することができた。		
	①-1 京都大学見学の実施。企業見学の実施。オープンキャンパスへの参加の推奨。	①-1 京大見学238名参加 企業研修297名参加				
①-2 第2学年での大学等体験授業の実施。	①-2 10月に実施					
①-3 第1学年での職業ガイダンスの実施。	①-3 10月に実施					
②-1 補習、模擬試験、休日講座等を実施。 毎週58講座（3年生） 27講座（1年生） 27講座（2年生）	②-1 毎週64講座（3年生） 27講座（1年生） 27講座（2年生）					
②-2 第3学年で7回のサテライン講座を実施。	②-2 サテライン16講座実施					
②-3 進路検討会を第3学年で年4回実施、第2学年で1回実施する	②-3 3年生4回実施予定 1、2年生で1回実施					
②-4 第2学年で課題研究発表会の実施。	②-4 2月に実施					
③-1 進路説明会の実施。（各学年1回）	③-1 各学年で1回実施					
③-2 難関大学進学希望者説明会の実施。	③-2 1年生で1回実施					
③-3 最難関大学、医・歯・薬学部進学希望者説明会の実施。	③-3 2年生で2回実施					

#### 4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標	生徒指導についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
<p>①社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る</p> <p>②学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する</p> <p>③生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する</p>	①-1	服装・頭髪・挨拶が身についている。 生徒 80%以上 教員 85%以上	①-1	生徒 80.3% 教員 88.7%	A A	<p>今年度は自転車で登校の例年と異なり、交通事故防止等に努める必要がある。遅刻の多い生徒がいて、学校全体として指導を充実させたいと考えている。</p> <p>（評定）</p> <p>A</p> <p>（所見） 全体的には、落ち着いた生活を送れたと思う。一部、生活面（服装・頭髪等）やマナー等の改善が必要な生徒も見受けられた。</p> <p>家庭で指導するべき遅刻等にも先生方が尽力していることに頭が下がった。かなり少なくなったが、学校近くまで傘をさしてさいる生徒がいるため、さらなる指導の徹底が望まれる。交通事故に遭ったときどう対応するか。日頃から生徒に指導しておく必要がある。事故申出が18件と多く、常に注意が必要である。自転車指導を重点的にお願いしたい。</p>
	①-2	ルール・マナーを守っている。 生徒 85%以上	①-2	生徒 88.4%	A	
	③-1	組織的な生徒指導ができています。 教員・保護者 85%以上	③-1	教員 85.5% 保護者 88.6%	A A	
	①-3	遅刻回数を前年度比5%減	①-3	前年度比26.5%増	C	
	①-4	生活委員による登下校でのあいさつ運動の実施回数 年間2回以上	①-4	2回	A	
	①-5	交通マナーアップ運動実施回数 年2回	①-5	2回	A	
	②	道徳教育のHR活動の回数 年2回	②	4回	A	
	③-2	クラス分析会の実施 年5回	③-2	4回	B	
	活動計画		活動計画の実施状況			
	①-1	各学年での服装・頭髪指導を充実させる。	①-1	全校集会後、各学年男女別で指導した。		
①-2	遅刻の多い生徒に対し段階的な指導として担任・生徒指導課・学年主任・管理職による個別指導を行う。状況に応じて保護者召還のうえ指導を行う。	①-2	遅刻用紙記入後の生徒に直接指導し、多遅刻者は担任が面談、もしくは保護者に電話等で協力を依頼した。			
①-3	生活委員によるあいさつ運動・自転車駐輪指導を前期・後期それぞれ1回実施。	①-3	正門、西門でのあいさつ運動を実施し、駐輪場での駐輪マナー向上の呼びかけも行った。			
①-4	交通マナーアップ運動などを通じて、全校生徒に社会のルール遵守やマナー指導を行う。	①-4	本町交差点において一般の方や東警察署員とともに交通マナーアップ運動に参加した。			
②	道徳教育に関するHR活動を各学年で実施する	②	高校生活について学年別で指導した。			
③	様々な問題を抱えた生徒に対し、学年や部活動顧問及び生徒指導課等が連携し、多方面から生徒の家庭状況や心身の状況の把握に努めて適切な指導を模索し、効果的な指導に努める。	③	問題行動のあった者、多遅刻者、対人関係に課題がある者など、関係教員と連携、指導した。			

## 5 特別活動の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	特別活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する  ② 部活動を充実させる  ③ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる	①	生徒会活動が活発である。 (生徒・保護者・教員) 75%以上	① 生徒 73.7% 保護者 80.1% 教員 85.5%	A A A A	A	24年度にはクラス数1削減、教員数2減と、少子化の中での「1学年8クラス」とも継続可能と考え、部活動・同好会等の指導にあたり、統廃合を考へなければならぬ。
	③-1	ボランティア活動に積極的に取り組む。 (生徒・保護者) 70%以上	③-1 生徒 72.2% 保護者 72.4%	A A		
	②	部活動の入部率 85%以上	② 部活動の入部率 86%以上	A		(所見) 委員会活動や各活動については例年通りの内容ではあるが、計画的に実施できないなどの課題がある。双方の中でよりよい方策を、考える必要がある。
	③-2	第1・2学年全員による清掃ボランティア活動回数 年1回以上 清掃ボランティア満足度 75%以上	③-2 第1・2学年全員による清掃ボランティア活動回数 年1回 11月実施 清掃ボランティア満足度 87%以上	A A		
	活動計画	活動計画の実施状況				
	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動の充実。</li> <li>城東祭運営の活動の活性化を図る。</li> <li>聾学校との学校交流に生徒会として参加。</li> </ul>	① 各種委員会活動は計画的に活動できている。城東祭については、実施のための運営委員会が、昨年度より活性化できたと思う。聾学校との交流は、まだ十分には進んでいない。何を交流の柱とするかなど、次年度の活動計画について両校で検討する必要がある。			
	②	部活動への積極的な入部を促し、学習との両立を図る。	② 部活動は活発に活動ができている。各部とも終了時間を早くするなどして学習との両立を図れるよう指導の工夫をしている。			
	③-1	地域(施設・諸学校・学校周辺地域)へ出かけ、ボランティア活動を実施する。 (生徒会・Knowサークル・邦楽部・茶道部・体育部など)	③-1 生徒会や運動部による学校周辺の清掃活動や、文化部の施設への慰問、また各種の募金活動などの活動ができている。活動時間がもっと確保できるなら、更に活動を広げることが可能である。			
	③-2	第1・2学年全員による清掃ボランティアを後期に実施する。	③-2 本年度は11月29日の午後に、1年生は河川敷の清掃、2年生は従来通り、市内の道路等の清掃活動を実施。9月の台風後使用できなくなっていた河川敷のグラウンドも何とかやっとなつた。ほとんどの生徒がやっとなつたとの感想を寄せている。			

## 6 体育・健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標	保健・教育相談のアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る	①-1	保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 70%以上	①-1	生徒 84.1%	A  A  A	A  A	多様化する生徒の心身の健康問題に対応するため、校内の支援体制の一層の充実が必要と思われる。食育については、各教科・各課との連携をはかり、生徒や保護者への啓発活動の充実を図る。
	③	親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる 70%以上	③	生徒 76.1%			
	①-2	「保健だより」の発行回数 10回以上	①-2	13回（予定を含む）			
②一人ひとりに応じた特別支援教育の推進を図る	①-3	尿検査の提出率 100%	①-3	100%	A	A	
③教育相談活動の一層の充実を図る	②	特別支援教育に関する職員研修会の実施回数 年2回	②	2回実施	A	A	
	活動計画		活動計画の実施状況				
	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>「保健だより」の発行を年10回以上。</li> <li>保健委員会での生徒の自主的活動の推進。</li> <li>文化祭での、健康増進への展示による啓発を図る。</li> <li>各教科や生徒指導・進路等各課とも連携し、食育啓発を図る。</li> </ul>	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>「保健だより」を年13回発行</li> <li>消毒液の補充等感染症予防対策として生徒保健委員会で実施。</li> <li>文化祭で保健展を実施。家庭クラブ活動で料理コンクールに応募。</li> </ul>			<p>（所見）</p> <p>保健室での対応については、生徒の自己評価で高い評価が得られている。また、尿検査の提出率は100%を達成することができた。「保健だより」や展示物等で健康増進や食育啓発に努めた。</p>
	②	特別支援教育に関する職員研修会を前後期にそれぞれ1回実施する。	②	5月に「不登校生の事例研究」、10月に「発達障害者の理解と支援」、以上2回の研修を実施した。			
	③-1	前期中間テスト後、気にかかる生徒についての情報交換を各学年で行い、心身や勉学についての悩みや問題を抱えた生徒の早期発見、早期支援を組織的・効果的に行う。	③-1	担任・学年会・保健室等の情報交換を通して、心身に問題や悩みを抱えている生徒に対して早めに対応をすることができた。また、管理職を中心とした担任や学年主任等との連携・協力により、生徒一人ひとりの状況に合わせた効果的な支援を行うことができた。			
	③-2	カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動の充実。	③-2	教員とカウンセラー間の連携・協力を密に行うことで適切な生徒支援を行うことができ、問題が大きくなる前に解決できた事例も多かった。			
							学校関係者の意見
							不登校の未然防止にカウンセリングが有効であるため、継続した取り組みが必要と思われる。カウンセラーの充実を図りたい。専門の方へのカウンセリングを受けるのは極めて重要である。同時に保健室の充実が求められる。

## 7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	環境教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る	①	学校は環境美化活動に積極的に取り組んでいる（教員） 80%以上	① 教員 87.1%	A	A (評定)	教育環境を整えるためには、まず「清掃」である。「清掃」に関しては指導監督者の意欲の現れがでる。教職員自らが見せ、生徒自ら積極的に取り組む指導環境体制が望まれる。次年度も引き続き教員の実践的美化意識の向上を図りたい。
	②	清掃活動を熱心に行い、美しい環境が保たれている（生徒） 80%以上	② 生徒 77.1%	B		
② 校内外の環境美化活動を推進する	③-1	避難訓練の回数 年2回実施	③-1 2回実施 (10月は聾学校と合同避難訓練)	A	A	「3R運動」を今年度以上に推進すべきである。「もったいない」運動を具体的実践行動として取り込む必要がある。防災訓練については、災害発生時にどれだけ安全かつスピーディーに行動できるかが重要な課題であり、「減災意識」を根付かせる必要を感じている。
③ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する	③-2	AEDの講習会回数 年2回実施	③-2 2回実施(6月・8/2実施)	A		
	活動計画	活動計画の実施状況		(所見)		
	①-1	節電・節水の呼びかけ	①-1 各HR環境委員を通じて節電・節水の啓発を実施。	「学校環境ISO認定校」最終年として、校舎内外の環境美化向上に特化した指導ができた。実践することにより、教職員はもとより、生徒の学校美化に対する意識が少しずつであるが変革向上できている。		
	①-2	環境問題に関する記事の掲示	①-2 環境問題に関連した新聞記事等を提示することにより環境問題に対する意識変革を目指している。	また、「もったいない」運動の浸透で節電が、震災意識の向上で過年度以上の節電の成果を残せた。学校との避難訓練では、聾学校との学校交流を兼ねた実践的な避難訓練を行い東南海大震災発生を想定しての減災意識が芽生えた。		
	②-1	毎日の清掃を徹底	②-1 清掃分担をより明確にし校舎内のゴミをゼロにすることを取り組んでいる。週末並びに「0のつく日」を「ごみゼロの日」と定めゴミをなくす取り組みをしている。			
	②-2	環境委員による校内や学校周辺の清掃活動の実施（特活課合同主催）	②-2 環境委員を中心とした校舎内清掃ボランティア活動を実施している。また、1・2年生による市内清掃ボランティア活動を11月に実施している。			
	③-1	防災計画の周知・徹底	③-1 「防災計画」を作成し、教職員の役割を明記。避難訓練にて避難行動実施。			
	③-2	防災訓練の実施及び避難経路の確認	③-2 7月15日に火災を想定した避難訓練、10月19日に津波を想定した合同避難訓練を実施。（教室に避難経路を掲示）			
	③-3	職員・生徒へのAEDの講習会をそれぞれ1回実施（保健体育課合同主催）	③-3 6月に生徒を対象に実施。（職員対象は8月2日実施）			
						学校関係者の意見
						災害時の対処方法などについては、繰り返し行うべきである。



## 8 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	読書活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る	①-1	読書活動に学校として積極的に取り組んでいる 70%以上	①-1 生徒 70.4% 教員 93.5%	A B	(評定)  B	昨年同様、読書活動への取り組みに関するアンケートの結果については、教職員と生徒の間に意識の差が見られるが、これは逆に言えば、生徒側の、現状に満足しない、読書への潜在的意欲の現れとも受け取れる。そうした意欲が、図書館の利用者数や貸出冊数の増加に結びつくこととともに、「クエスト」を中心とした、新書等への読書の幅の広がりへと更に結びつけられるよう工夫をくらすことが必要である。
	①-2	生徒一人あたりの年間図書貸出数 5冊以上	①-2 3.9冊（12月末）	A		
②生徒の自主的な読書活動を推進する	②	読書会、読書週間の実施回数 それぞれ 年2回以上	② 読書会・読書週間とも既に2回実施している。			
	活動計画		活動計画の実施状況		<p>(所見)</p> <p>1月末時点で、読書会を4回実施（残り1回は台風で中止）した。図書委員の自主的な企画で行われた読書会もあり、図書委員会活動の活性化が図られた一年であった。</p> <p>3年目となる「図書館活性化事業」の効果もあって、貸出冊数、図書館利用者数とともに、昨年度よりも増加する見込みである。「ビブリオバトル」など、新しい試みを実施した。より一層の活性化につなげたい。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>学校図書館事業の成果を次年度以降どう継承・展開していくか、方策を考えて欲しい。まだまだ読書量が少ない。哲学などに関心を持つ生徒を育てて欲しい。</p>
①-1	読書会、読書週間を各学期に各々1回実施する。	①-1 既に2回実施した。				
①-2	「ライブラリーニュース」を発行する。	①-2 10回発行した。				
①-3	学校ホームページに図書館情報を掲載する。	①-3 掲載している。				
②-1	図書委員が校内アナウンス等で読書啓発をおこなう。	②-1 読書週間に合わせて行った。				
②-2	図書委員を中心に、朗読・読み聞かせなどのボランティア活動をおこなう。	②-2 日程が合わず、今年については実施困難である。				

## 9 国際交流の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標	国際交流についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る  ②国際社会の中で主体的に生きる能力や資質の育成を図る	①②	国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる。（生徒・保護者・教員） 85%以上	①②	生徒 77.6% 保護者 81.3% 教員 93.5%	C B A	来年度はフランス・サンジョセフ校との交流の年にあたるので、受け入れホストファミリーの確保に努める。そのためにも、年度当初より特に生徒に対し、広報に努める必要がある。 国際理解を推進するための諸行事に積極的に参加するよう促す。	
	①	国際交流の活動記録展示回数 2回	①	2回実施	A		B
	②-1	国際理解弁論大会等の生徒参加人数 1名	②-1	3名（英語の部2名） （日本語の部1名）	A		
	②-2	国際理解教育に関する諸行事の参加回数 2回以上	②-2	2回	A		
	活動計画	活動計画の実施状況					
	①-1	文化祭などでサンジョセフ校との交流記録の展示（2回）	①-1	第6回姉妹校交流（派遣）についての展示を、9月（城東祭）と1月（多目的ホール前）に実施	（所見） 姉妹校交流や国際交流体験プログラムへの参加が、弁論大会等への積極的な参加につながった。 姉妹校交流展示や交流記録集の作成にも、生徒は交流生徒という自覚と責任を持って意欲的に取り組んだ。 交換留学生の受け入れを通して、外国語及び異文化についての興味関心が自然と高まった。 生徒が国際的な視野を広める機会を、さらにいっそう持てるよう取り組んでいく必要がある。	学校関係者の意見  姉妹校との連絡調整等が大変だと思うが、高校生に異文化に触れることは良いことだと思う。さらに、個人においても留学の機会やチャンスを与えて欲しいと思う。	
①-2	外国の生徒との交流の機会を計画する。（2回）	①-2	ロータリー青少年長期交換プログラムで長期派遣交換留学生（カナダ）を受け入れ（平成23年8月～平成24年7月）				
②	国際理解教育に関する諸行事への参加を奨励する。	②	JICA 四国高校生国際協力体験プログラム（於愛媛）に生徒2名が参加。その後、JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストに応募（2名）。				

## 10 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標	開かれた学校のアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①教育活動の積極的な公開を推進する	①-1	教育活動の公開が学校の理解に役立っている（保護者） 80%以上	①-1	保護者 90.8%	A	（評定）
	②-1	ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立っている（利用の保護者対象） 80%以上	②-1	保護者 84.4% （77.5%がHP閲覧者）		
②ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する	①-2	授業公開を年3回実施 参加者数（合計） 700名以上  中学生体験入学の参加者数 中学生 800名以上 保護者・教員 100名以上	①-2	841名参加  843名参加 146名参加	A  A A	A
	②-2	ホームページの更新回数 年90回以上	②-2	8ヶ月で60回更新	A	
③地域社会，PTA，同窓会との連携を図る	③-1	学校支援協議会の開催回数 年2回	③-1	7月開催，3月予定	A	A
	③-2	学校説明会の回数 年3回	③-2	3回実施	A	
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見）			学校関係者の意見
	①-1	・授業公開を実施する。中学校，大学，学校評議員，保護者等への案内を徹底する。 ・中学生体験入学の実施については体験授業，体験入部の内容や方法等について事前に十分検討する。	①-1	授業公開を5月・7月・11月に実施した。7月の授業公開を土曜日に実施したことで多くの参加があった。中学生体験入学では，熱中症予防対策を講じた。	アンケートの結果を見ると，十分目標を達成していると言える。授業公開，中学生体験入学についてはほぼ例年とかわらない来校者数，参加者数であった。 ホームページの更新回数は，ほぼ昨年度のペースで更新できたと思われる。並み学校説明会は，昨年度並みの参加者を数え，学校の教育内容を具体的に説明することができ，生徒募集に効果があったと考える。	
	②-1	ホームページの内容の充実，速やかな更新に努める。	②-1	必要に応じ適宜更新した。内容は年々充実してきているが，改善の余地はある。		積極的な授業公開の実施は非常に高く評価できる。土曜日開催は曜日振替の問題があって難しいかも知れないが検討してほしい。
	③-1	学校支援協議会を前後期にそれぞれ1回開催する。	③-1	前期は開催済み。後期は3月に開催予定。		総じて，よく努力されており，成果を上げていると判断できる。
	③-2	中学生及び保護者対象の説明会を開催する。中学校への案内を工夫する。	③-2	学校説明会を午前，午後，夜の部，各1回の計3回開催し，合計で148名の参加を得た。説明会にあわせて部活動を公開した。ホームページでの案内，ポスターの作成など広報にも努めた。		

## 11 教職員の資質向上

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	職員の職場についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る	① 教員の職務の満足度	80%以上	① 教員 96.8%	A	(評定)	来年度以降、クラス数が減り、教員が減少傾向になることが予想される。限られる人数で教育活動を行おうとすると、校務の配分で効率よく仕事をできる体制づくりが求められる。また、教員の忙しさを少しでも減らすようにする必要がある。危機管理に対する意識を持つて保護者の学校に対する要求水準も高くそれに答えるべく研修を計画していきたい。
	② コンプライアンスに対する自己評価	80%以上	② 教員 98.4%	A		
②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る	②-1 危機管理に対する取り組み	70%以上	②-1 教員 93.5%	A	A	学校関係者の意見
	②-2 情報セキュリティポリシーについての研修会の回数	年2回実施	②-2 転入職員4月 全教職員12月実施	A		
③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	③ 校外での指導力向上研修参加人数	10名	③ 県外の授業力向上研修7名	B	(所見) コンプライアンス意識の高揚については、職員研修会や職員朝礼等、機会あるごとに委員会の服務規律の確保等の通達の徹底を図った。 今年度、情報セキュリティの実地監査で指摘されたパスワードの定期的な変更やUSBメモリの管理を徹底させたり等の措置を取った。	県外予備校の授業力向上研修について効果はあるのか。多くの知識を得る先が結果的に生徒に還元されるので、研修は積極的に受けていただきたい。
	活動計画		活動計画の実施状況			
	①-1 校務運営委員会の活性化を図る		①-1 将来ビジョン検討委員会と連携し学期制、コース制について変更を図った。			
	①-2 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する		①-2 共有フォルダを活用した文書管理をすすめた。			
	② 本校の「情報セキュリティポリシー」を確実に実行できるようにする。		② 情報資産の管理を中心に教職員に周知徹底した。			
	③-1 職員研修の日を計画的に年間を通じて配置し、効率的な研修を行う。		③-1 定期考査時に人権教育、特別支援教育に関する研修を実施した。 また、学年別で、学力向上のための模試分析会を開催した。			
	③-2 予備校等の授業力向上研修に参加する		③-2 県外の予備校での授業力向上研修に7名が参加した			